

支持的風土だより 	第19号 2020年9月00日 新潟市教育委員会学校支援課 支持的風土チーム
---	---

「支援」の在り方 – 生徒指導の視点から –

支持的風土とは、
個人のわがままを
許すことではありません。

「傾聴と受容」 その先にあるもの

各校園での「傾聴と受容」を大切にした指導が定着してきました。先生方の真摯な取組に感謝申し上げます。

しかし、少し心配なことがあります。それは、「傾聴」が「子どもの言うことを何でも聞く」、「受容」が「子どものすべての行動を許す」など、誤った捉えをしていないかということです。「傾聴と受容」は、「教師と子どもの信頼関係（リレイション）」が基盤です。そして、望ましい「支援」の姿を目指すためには、「傾聴と受容」とともに「規範意識の育成（ルール作り）」が重要となります。

支持的風土では、子どもが努力した上での失敗や間違いを寛容に受け止めて援助をします。個人のわがままを許すようなことはしません。

今回のテロワールでは、生徒指導的な視点から支持的風土を見つめ直します。

「支援」の関係づくりのための規範意識の育成

教師が子どもの
手本となります。

指導の構え	教師の対応	子どもへの指導のポイント
①間違っただけや失敗したことも認め、励ます。	「どうしてその答えになったのかを教えてください。」 「なるほど、そのように考えたのですね。」	・間違いをからかってはいけない。 ・真剣に考えることが大切である。 ・なぜ間違っただけかを考えることで、みんなの学びが深まる。
②前向きに努力していることを応援する。	「結果が出なかったのは残念だけど頑張ったね。」 「努力することで成長できます。」	・頑張っている人の足を引っ張ったり、否定したりしてはいけない。 ・人は、努力の過程で成長できる。
③競い合いや比較だけで評価をしない。	「今までの自分と比べてみよう。」 「できないことを困っているんだね。解決策を一緒に考えよう。」	・誰にでも得意不得意がある。 ・相手の気持ちに応じて助けることでともに学び、成長できる。

教師は、「いじめ」はもちろん、相手の心を傷つけるような言動に対して「許さない」という姿勢で厳しく対処しなければなりません。その際、指導する子どもの人格を否定するのではなく、問題となる行動と言葉に対して毅然とした態度で指導をします。

このような指導を行うためには、教師が日ごろから子どもたちの努力の過程に注目し、子どもの変容や成長に対して、「よくやった!」「先生もうれしい!」などの言葉掛けをして、子どもとの信頼関係を築いておくことが大切です。

このようなリレイションとルールづくりが教師の振る舞いの基軸となります。

先生方のやさしくて、たくましくて、正しい指導で、子どもたちを自立させ、望ましい「支援」の関係をつないでいきましょう!

